2 畳茶室づくりは 2011 年から始まって 9 年目になります。

2011 年「浮游庵」、2012 年「PET^{ペッター}庵」、2013 年「段庵」、2014 年「蹴鞠庵」、
2015 年「ゲル庵」、2016 年「紙庵」、2017 年「紐庵」、2018 年「角々庵」と続けてきました。
今年 2019 年の茶室は「吊庵」です。

A A 班はまるで立方体が宙に浮いているかのような茶室にしました。
原寸ではなく、実物の 3 分の 2 サイズになっています。
重すぎたら吊ることができないし、軽すぎても強度が無く、素材選びにとっても苦労しました。
糸の色にもこだわり、統一感もありつつアクセントに違う色を入れ、
様々な色の毛糸を使いました。
茶室の概念を壊した作品になったと思います。
揺れる糸の幻想的な空間をお楽しみください。

B 唯一宙に浮かない「吊庵」で、原寸大で作っているので一番大きな茶室です。
たくさんの糸の色を使っていることや、キラリと光る糸があること、
糸の間隔が広い、狭い、広い…と交互になっていることにお気づきいただけただけでしょうか。
変化を楽しむことができるように考えました。
アイデアを出す際に、床にペットボトルキャップを使うと面白くなるのでは、と考え
一面にペットボトルキャップを敷き詰めてみました。
また、今プラスチック海洋破棄が世界的に問題になっているので、
そういう問題があることを知り、考えるきっかけになればと思います。
中に入れますので、ピンと張られた糸、床のキャップを踏む感覚を是非お楽しみください。

C 私たち C 班は一枚の紙を切ることによって幾何学模様の立体を生み出し、
吊られていることを感じさせない、まるで宙に浮いているかのような茶室を考えました。
素材選びにはとても苦労し、色々な試行錯誤を繰り返しました。
今回は残念ながら、通常のスケールの半分での茶室となってしまいましたが、
とてもやりがいのある作品になりました。
中の空間も今までには体験したことのないものになっています。
この茶室が生み出す幾何学的な空間をどうぞお楽しみください。